



# 保育かながわ

発行所  
横浜市神奈川区沢渡4の2  
神奈川県保育会

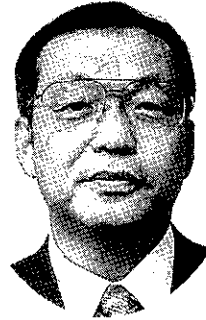
発行人  
都 築 融 光

題字  
故内山岩太郎筆

## かながわの子ども・子育て支援

神奈川県次世代育成・  
保健福祉特定課題調整担当部長

稲垣良一



神奈川県保育会の皆様には、日ごろから本県の保育行政の推進に多大なお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。

近年、都市化や核家族化、長時間労働などにより、子育てにかかる負担感が増大するなど、子どもや子育て家庭をめぐる環境は大変厳しいものとなっております。神奈川県においても、6歳未満の子どもがいる世帯の約9割が核家族となっており、多くの家庭で祖父母の支援を得られにくい現状があります。また、父親の育児への参加については、本県を含む南関東地域では、平日の帰宅時間が夜11時以降である父親の割合が全国で最も高くなっており、母親一人が育児を担わざるを得ない

状況につながっています。

さらに、経済情勢の悪化に伴う母親の就労希望の増加や就労形態の多様化、都市部への子育て世帯の流入などにより、保育所へのニーズは急激に高まっています。本県の保育所入所待機児童数は、平成21年4月1日現在で、前年同期よりも1113人多い3245人となり、3年連続で増加するとともに、その増加幅は年々拡大する傾向にあります。

待機児童への対応につきましては、これまで、保育所の整備促進を市町村に働きかけるとともに、民間の認可保育所に対する運営費の助成や、県独自の基準に基づく認定保育施設の整備促進に取り組んできたほか、土地や建物を賃借して認可保育所を整備する場合の独自の支援制度を国に先駆けて実施しています。

一方、多様な保育サービス

を、地域の実情に応じて推進しています。

さらに、今年度から「事業所内保育施設」を新たに整備する中小事業者を対象とした施設整備への補助事業を開始しましたが、「事業所内保育施設」が整備されることにより、地域の保育所の利用枠に余裕が生じ、結果的には県域全体としての待機児童の解消につながることも期待しております。

国においても、平成20年2月に「新待機児童ゼロ作戦」を定め、希望するすべての人が安心して子どもを預けて働くことができる社会の実現を目指しています。平成20年度の第2次補正では、「新待機児童ゼロ作戦」の集中重点期間である平成22年度までの3カ年の緊急事業として、1千億円規模の「子育て支援対策臨時特例交付金」が措置されました。各都道府県はこの交付金を原資として、「安心こども基金」を造成し、基金を活用して保育所、認定こども園等の整備や、保育の質の向上のための研修事業など、子育て

支援に係る事業を実施することにより、子どもを安心して育てることができるとして体制の整備を図ることとしています。そして、今年度の国の第1次補正予算では、新たな事業も打ち出される中で、さらに1千5百億円の基金が積み増しされ、都道府県に配分されている状況にあります。

本県においては、平成20年度末に保育関連で約67億円、さらに今年度の国の第1次補正予算に对应して約75億円が配分され、合計で140億円を超える規模となっております。

この基金事業は、平成22年度末までという期限があることから、市町村においては、当初の整備計画を前倒しするなど積極的に取り組んでおり、県所管域で22年度末までの整備により1700名を超える定員増が図られる見込みとなっております。

今後、県としても、広域的・先導的な観点から、市町村とともにこの基金を有効に活用し、家庭の子育て機能を補完する保育サービスの充実・強化に向け、さらに、効果的かつ重点的な取り組みを展開し、良質な保育環境の整備に努めてまいります。

神奈川県保育会の皆様方におかれましても、今後とも神奈川の未来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

# 第43回 保育事業大会

すべての人が  
子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして！  
— 子どもの健やかな成長と発達を保障するために —

〈大会趣旨〉  
少子化傾向のなかで、核家族化の進行などにより子育てに不安や孤立感を抱く保護者が増加するとともに、連携が希薄化してきた社会にあっては培ったきた貴重な地域力や連帯感が低下してきている。そうしたなか、保育園は次世代を担う子どもたちの健やかな成長を営むなど地域における子育て支援を行う最も身近な組織として、その役割の重要性は増し、期待は高まってきている。  
こうした状況を踏まえ、今大会は実践に基づく研究の成果の発表や活発な討議等を通して、さらなる保育の質の向上を目指す一方、永年に亘り保育業務に尽力精励した功労者を表彰する事により保育事業の一層の発展を図ることを目的として開催するものである。

第四十三回神奈川県保育事業大会が平成二十一年四月二十五日(土)に神奈川県社会福祉会館にて開催され、雨にも関わらず七百余人の参加者が集いました。

式典では、都築会長より「新保育指針がいよいよ四月から施行されました。子ども達一人ひとりに平等にたずさわりの質の高い保育をめざしましょう」との挨拶のあと、長年にわたり園児のために努力された永年勤続の方百四名、保育事業に貢献された叙勲受章者一名、厚生労働大臣表彰十一名、神奈川県保育賞二名の方々に、表彰状と記念品が贈

呈されました。

式典には十八名の来賓の方々に出席していただき、代表として四名の方から祝辞をいただきました。神奈川県次世代育成担当部長の稲垣良一氏より「愛情を持って保育にあたってくださる、県議会議長の榎本与助氏からは「核家族化が進む中、人生の基礎となる育ちを一緒に守りましょう」、鎌倉市長の石渡徳一氏より「夢と希望が持てる子どもの育ちに期待します」、横浜女子短期大学学長の平野建次氏からは「自分がされて嫌な事は決して他人にしない社会を築きたい」との言葉をいただき

きました。地域の子育ての中心となる役割の重要性を再確認して、式典は終了しました。

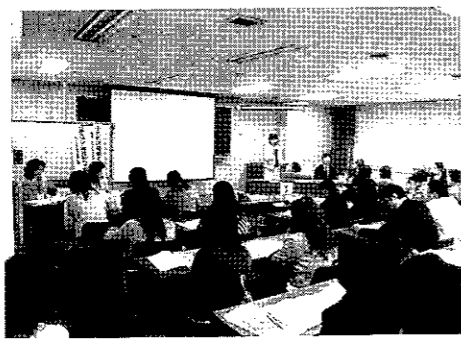
式典終了後、保育会総会が開催され、事業報告、収支決算報告、会計監査報告がなされました。平成二十一年度事業計画として、(一)新しい情報の迅速な伝達、(二)多様化する保育ニーズへの対応、(三)保育園利用者相談室の有効活用、(四)保育事業大会の充実の四つの柱と、それに伴う予算案について審議した結果、各議案とも承認されました。

午後は三会場に分かれての研究発表が行われました。



## 第一会場

「職場内研修の充実による職員の資質向上」をテーマに①民間保育所経営問題専門委員会人材育成分科会による、「行事を通して職員の育ちを考えるとことん保育を楽しむ」と題しての発表では、「2年間にわたるお泊り保育」の実践を、パワーポイントを使って報告し、保育士自身が保育に楽しんで取り組むことで自らの保育の質の向上につなげていける過程を紹介されました。保育士の育ちの場は、研修会だけではなく管理者側が保育の環境のデザインをどうしていくか。保育をとことん楽しもうという事を忘れてはいけないと、発表されました。②足柄上郡保育士会研究会による「子どもの発達と運動あそび」環境づくりと保育の計画」と題して発表がありました。日々の保育の中で運動能力の低下を感じ、運動あそびの指導計画を二ヶ所の保育園で実践し見直した結果、あ



そびの中でのケガが減少したことや、運動以外の活動にも積極的に取り組む姿が見られるようになったと報告がありました。

③伊勢原市保育内容研究会による、「伊勢原に伝わる民話・伝承あそびについて」と題して、伊勢原の歴史や伝統・文

化を子どもたちに伝えやすい方法を考え研究したものを発表しました。大山こま・手遊び・カルタ・伝承マップ・民話紙芝居、どれも子どもになじみやすいものになり、製本し、保育園、小学校等に置いて使用していただく方向で検討する予定だそうです。

## 第二会場

第二会場では鎌倉市保育士会と寒川町保育士会からの研究発表がありました。はじめに鎌倉市保育士会研究会から「子育て支援の拠点としての機能の充実」保育の場の家庭支援と子育て支援」と題して①行政の行っている地域子育て支援②各園の地域活動③子育て支援会の考察④ひとりひとりができる子育て支援の四つの課題を取り上げ具体的な取り組みについて発表されました。

①については、現場の保育士は自分達の園以外にはあまり知らないということがわかり、まずは行政の行っている支援事業の情報を保護者に知らせていくことを始めたとのことでした。②については、在宅の親子に向けてポスターやチラシを作成し公共の場に設置。保育園に遊びに来るよう働きかけをした。③については、今後どうしたら地域の親子とのつながりを持つことができ、

公私立一緒にできることは何かを探り具体的な方法として子育て支援会が考察されました。また④の「ひとりひとりができる子育て支援」としては「散歩でできる子育て支援」と『保育園内のできる子育て支援』について実践例をあげた発表でした。

二つ目の発表は寒川町保育士会保育内容研究会から「保育園であそぼう」私達にできる子育て支援」ということで平成十四年度から検討し、十六年度から行っている「保育園であそぼう」という事業の具体的な取り組みを豊富な画像とアンケート結果などを使って発表され、とても分かり易く参考になりました。また最後に羞恥心の曲の踊りラフルな手作り人形達の踊りが披露され、とても楽しい雰囲気の中で発表が終了しました。どちらの発表も普段の保育に支障の無いようにしながら身近なところから取り組んでおり、地域の子育て家庭へ少しでも役立ちたいという強い意欲が感じられました。

## 第三会場

第三会場では、三つの研究の発表がありました。

①相模原市立文京保育園から「おいしく楽しく食べる子ども」文京保育園食育の取り組み」の発表がありました。職員全員で4つのチームをつくり、様々な観点から保育につなげている園全体の取り組みと「食育メモ」の活用により普段の気がついたことを細かく記録に残し、次につながるよう工夫している。保育者と保護者の良い関係を構築していく中で、子ども達が五感を使い食に興味を持ち、「おいしく」「楽しく」食べる活動の様子が伝わってきました。

②南足柄市保育士会から「食育」たのしく！おいしく！食育」の発表がありました。子ども達が実際の体験を通して「自然と食事」「命と食事」の繋がりに気付くよう栽培を中心とした食育計画及び食育の活動実践の研究内容の紹介があり、その中で食

育シールやゲームを取り入れたり、食事のマナーのアンケート調査、身近な人との繋がりを通して感謝の気持ちやマナーを身につけていくことの大切さなど食育を進めるにあたり子ども達の食事に関する意欲が高まるような研究内容の発表でした。

③神奈川県保育士会保育内容研究会から「楽しくからだを動かそう」の発表がありました。アンケート調査を行い、二十四年前の子どもと現在の子どもを比べて運動発達面において著しく変化のあった項目についての調査結果と簡単にできる「走る」遊びの紹介、実際の子ども達への鉄棒や跳び箱の実技指導の様子のビデオ上映があり、とても分かりやすく説明がされていました。また、この研究についての講師である亀谷正美先生の生のお話が聞け、子ども達自身も「からだを動かす楽しさ」を感じる事ができるよう保育者が工夫することが大切であるという実践的な研究内容の発表でした。

# 第50回 関東ブロック 保育研究大会

～子どもの健やかな成長と発達を保障するために～



会場に着くと鮮やかなピンク色のシャツを着た方々に迎えられました。若干リハールが延びたようで、ホール入りの時間が遅れましたが、記念すべき第五十回目の大会が盛大に開催されました。資料内において今までの歴史が記されており、昭和三十四年の第一回の山梨県を皮切りに脈々と続いている開催記録を見て、数多くの諸先輩方のご苦労とご活躍を改めて思い知りました。

その第五十回関東ブロック保育研究大会は、梅雨の合間の平成二十一年七月八〜九日の二日間の日程で行われました。鮮やかなピンク色の花、さくら草が県花である埼玉県で行われ、会場となった大宮ソニックシティには大会スタッフを含め千四百名の人がびとが集結しました。

オープニングは、聖学院大学フィルハーモニー管弦楽団によるセレモニーが行われ、花のおさなごオーケストラバージョンなどの素晴らしい演奏で会場の人びとに安らぎを与えてくれました。

開会式では、大会運営委員長でもある埼玉県保育協議会会長の歓迎のことばに続き、花のおさなご斉唱と保育関係物故者への黙祷、大会運営委員会副委員長でもある埼玉県保育士会会長による児童憲章の朗読。続いて、主催者を代表して、埼玉県知事、関東ブロック保育協議会会長のあいさつ、来賓を代表して埼玉県協議会副会長のあいさつをいただきました。その後、来賓並びに主催者の紹介、感謝状贈呈を行い、最後に埼玉県保育協議会副会長による「大会決議宣言」が読み上げられ式典が終了しました。

基調講演は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課保育指導専門官の天野珠路氏より、「改定保育所保育指針について」が終了しました。



「と」のテーマで新保育所保育指針の具体的展開についての講演や天野氏が制作に関わられた「保育指針を映像に！」のDVDの一部が上映されました。その後の記念講演では、「ケイタイ・ネット社会と子どもの心」とのテーマで、作家で評論家の柳田邦男氏にメディア社会の問題点や読み聞かせの素晴らしさ。そして、子どもの心の発達を考える素敵な絵本を教えていただきました。

川県の代表として、第一分科会に神奈川県保育会・民間保育所経営問題専門委員会・人材育成分科会の三名（横須賀市太田和保育園：藤沼直美副園長・相模原市立正保育園：坂本喜一郎副園長・綾瀬市吉岡保育園：大塚哲明園長）による「職場内研修の充実による職員の資質向上」。そして、第五分科会には、鎌倉市保育士会の三名による「子育て支援の拠点としての機能の充実」をテーマに両会場で発表がなされました。また、第三分科会の議長を、茅ヶ崎市立鶴が台保育園の大谷和子園長が務めました。

なお、一日目終了後に、翌日の分科会でお力を十二分に発揮していただけるようにと、分科会発表者と議長への激励会が現地の会場で保育会主催のもと行われました。一日目の大会終了時刻が遅れたために主催者が到着しないハプニングもありましたが、とても和やかな雰囲気の中で行われ、神奈川県心の強い絆を再確認することができました。

## 第一分科会

たことなどの発表がなされました。

二番目は、埼玉県狭山市いるま保育所から「保育士研習つてなにをすればよいの？」と題して発表がありました。保育所内研修の実施における課題と工夫などを挙げ、毎月一回、土曜日の一日を園内研修の時間に充てていることなどの発表がなされました。

## 第五分科会

の代表である鎌倉市保育士会から、「保育の場の家庭支援と子育て支援」と題して発表がなされました。行政が行っている支援事業を保護者に知らせたり、地域の公園などに積極的に外向き情報発信をしていく事や各園が行っている子育て支援活動についての発表がありました。また、市内全園で関われる子育て支援の考えに取り組んでいるとの報告がなされました。

三番目は、千葉県袖ヶ浦昭和保育園から「開かれた居心地良い保育園になれるか」を研究し、研究方法や実践例が挙げられました。地域の人と共に子育てをすることや保育

園という垣根を取り除くと言いうことが、今後の課題であると思われていました。

最後に、長野県佐久市立協和保育園から「保護者との連携を通して」と題して発表がありました。保護者にアンケートを行った結果、アドバイスや情報提供を求めていることが分かり、それに対応するために保育者の資質の向上と意識の変革が大切であるとまとめられていました。

発表終了後、助言者の文教大学教授の櫻井氏より、子育て支援は地域での子育ての実状の把握から求められる支援を考え、それを保育者全員が共有し、理解することが大切であるとの助言をいただき、分科会が終了しました。



最後に、私たち神奈川県代表である神奈川県保育会民間保育所経営問題専門委員会より「行事を通して職員の育ちを考える」と題して発表がありました。視点を変えたところから職員の資質向上を捉え、相模原市立正保育園の四歳児からの二年間にもおおよ泊まり保育での事例を主に発表がなされました。同園のお泊まり保育は、それに付随する総てに子ども達が主体的な活動に繋がるテーマが連続しており、その中で職員がチームを組み共通理解を持つて取り組むことにより、周囲への保育内容の伝え方や保護者との

関わり等の様々な面で職員自身のスキルアップが見受けられたとの発表がなされました。発表終了後、助言者でジャーナリストの倉掛氏より、保育所内で研修に取り組む必要性と進め方、研修意欲の向上と環境の整備等や保育者は経験年数ではなく経験「知」であるとの助言をいただき分科会が終了しました。

第五分科会は、「子育て支援の拠点としての機能の充実」というテーマに沿って四つの研究発表がなされました。

最初に、群馬県前橋市赤城育心保育園から「地域性を生かした保健師との連携」と題して発表がありました。小さな地区である利点を踏まえ、地域の子育て支援が充実するように保健師と連携を取っており、そこから地域の全ての子育て家庭への支援を行えるように定着化を図っているとの発表がなされました。

二番目に、私たち神奈川県



第一分科会は、「職場内研修の充実による職員の資質向上」というテーマに沿って三つの研究発表がなされました。

最初に、山梨県韮崎市立中田保育園から「自己評価を生かして共通認識をもつ」と題して発表がありました。韮崎市は、公立九か所の保育園で自己評価を行い、園内研修で検討している。また、職員の雇用体系や勤務態勢が多様化している中で、共通意識を持ち保育を進めて行くための方法を職員へのアンケートや自己評価等を活用しながら探っ

## 一般社団法人として新たなスタートを

九月十六日(水)、社会福祉会館の講堂において、神奈川県保育会臨時総会、一般社団法人神奈川県保育会設立総会が開催されました。

### 神奈川県保育会総会

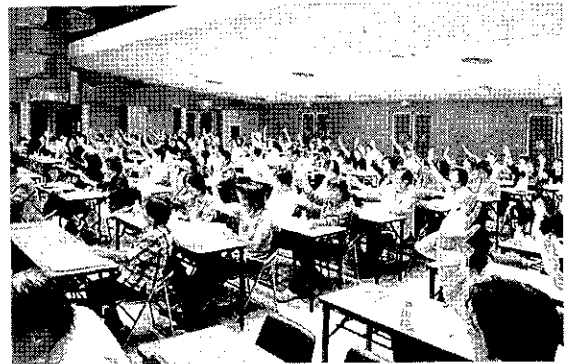
まず、臨時総会の冒頭で、司会から、本日の出席会員が一〇八園、委任状出席が一五三園で合計二六二園という全会員の七四・四%の方々の出席が報告されました。

都築会長は挨拶の中で、「県



保育会は、約五〇年間、任意団体として活動してきたが、新しい時代の要請に沿った組織改正を実施する時期が来た。是非会員の皆様のご理解とご協力により、過去の歴史に恥じない良い組織を作ってまいりたい。」との抱負を述べた後に、議長となり、議事に入りました。

議事は、「神奈川県保育会の組織改正について」であり、グランド・デザイン検討会座長及び法人設立準備委員会作業部会長として、法人化推進の中心的役割を果たしてきた榊居副会長から、これまでの取組みの経緯や新組織の概略案の説明とともに、「保育会の性格を、従来の『共益的な性格』から『公益的な性格』を強め、事業の透明性を確保しながら、法人格を持った組織として、新たな再生を図りたい。」との発言があり、協議の結果、神奈川県保育会が一般社団法人としてスタートする



ことが承認されました。

そして、法人設立後、神奈川県保育会は解散し、すべての残余財産は新法人に引き継いでいくことも併せて承認されました。

### 一般社団法人神奈川県保育会 設立総会

引き続き、設立総会が開催され、会長挨拶、議長・議事録署名人の選出後、議案の審議に入りました。

第一号議案は、「新法人の定款(案)及び今後の登記手続き」で、定款(案)については、熱心な討議の中で、様々な意

見・要望が出され、現執行部一任となり、意見等で盛り込むべきものを整理して反映することで承認されました。

第二号議案は、「今年度の新法人の事業計画及び予算(案)」であり、今年の四月の定時総会で承認された事業計画と予算を、新法人設立後に、そのまま引き継いで事業を展開していくことが承認されました。

第三号議案は、「設立登記時の役員(案)」で、法人設立登記は二人以上の会員で可能ですが、現会長、副会長四名が全会員を代表して「設立時役員」となることを提案して承認されました。

第四号議案は、「設立登記時の役員(理事・監事(案))」で、現会長、副会長、専門部の各部長が設立時理事、また設立時監事は、現監事が引き続き就任するという案が承認されました。

これにより、法人設立後は、この理事、監事がそのまま就任することになり、都築会長が初代理事長に就任することになりました。なお、こ

の役員の任期は、来年四月の定時総会の日までとなります。今後の手続きとしては、定款を確定した後に、公証人の認証を受け、登記所へ法人設立登記申請を行い、「一般社団法人神奈川県保育会」としてスタートすることになります。

新型インフルエンザ、民間保育所運営費補助に関する会議 設立総会終了後に、県保健福祉部の担当課長出席の下に、二つの重要な会議が開催されました。

まず、新型インフルエンザについては、感染の急激な拡大が懸念される中で、保育所の感染予防、発生対応、感染拡大防止対策等について熱心な意見交換が行われました。

次に、民間保育所運営費補助については、九月の保育会委員会の後に、県から説明がありました。委員から、会員全員に対する説明を丁寧に行うべきとの意見を受けて、実現したものです。

会議の予定時間を超える真剣な討議が行われました。

# 県・市町児童福祉主管課長と 委員との連絡協議会

今年度の連絡協議会は、七月二十九日水曜日、横浜駅近くのホテルキャメロット・ジャパン、フェアウインドにて開催されました。当日は、神奈川県より次世代育成・保健福祉特定課題調整担当稲垣部長をはじめとし芝山課長、杉本主幹、酒井主事の方々のご参加をいただき、また十五の市や町の児童福祉主管課長、そして三十七名の保育会委員、総勢五十七名の出席となりました。当日は夏本番の暑さでしたが、会場は快適で、和や



かな雰囲気の中、会が始まりました。

この連絡協議会は、平成三年から始まり、政令市を除く市と町の主管課長と保育会委員が同じテーブルに着き、諸課題等について共通の認識を深めるとともに、県内各地域の状況などについての情報や意見の交換を行い、保育の充実と進展に資することを目的に毎年一回開催されています。会は、石塚総務部長の司会により進められ、宮田副会長の開会のことば、都築会長の主催者挨拶に続き、稲垣部長より来賓挨拶を賜りました。ご挨拶では、次世代育成計画や、総選挙の話題に触れていらつしやいました。その後、出席者全員の自己紹介が行われ、議題に入りました。

議題(1)として、流行している新型インフルエンザについて神奈川県保健福祉部健康増進課・長島副主幹より、「新



型インフルエンザに対する対応について、神奈川県の基本

的考え方と対応方針について」と題し、ご説明いただきました。新型インフルエンザ対策の取組状況からはじまり、六月十九日厚生労働省より出された臨時休業の要請等に関する運用指針(改訂版)に記載されている基本的な考え方、今後の県の対応について、「基本的対処方針」のQ&A資料等に基づき、丁寧なお話を受けました。今、一番関心の高い問題について県・市町・保育現場が一体となり勉強させていただきま

した。説明後、都築会長より、各市町での新型インフルエンザ

対策の取組や対応をお話していただきたいとの提案があり、各市町児童福祉主管課長に状況を説明していただきました。マスクや消毒液の確保、緊急保育体制、職員の健康管理、手洗い・うがいの励行、今後の流行の不安等のご意見が聞かれました。各市町で、状況をよく把握されており、主管課長を中心に綿密な取組がなされていることが感じられました。

議題(2)として、榊居副会長より神奈川県保育会の課題と今後の方向性について、資料を基に、神奈川県保育会グランド・デザイン検討会座長の立場で経過説明がありました。今後、各市町と情報を密にして対応していきたいとのことでした。

議題としては、神奈川県保育会の事業説明や意見交換会も予定されておりましたが、時間により割愛されました。しかしながら、今一番の関心事である新型インフルエンザについて、十二分に意見交換がなされたことは、今回の連

絡協議会が実り多い会になったことと思われました。

最後に、宮田顧問より、新型インフルエンザについての感想や、神奈川県長の部長をはじめ、市町主管課長の多数参加への感謝と、今後も子どもたちや保護者、また職員のことをよろしく願いますとの暖かい締め言葉により、閉会しました。

神奈川県内の市町、県、そして保育会の連携と協力こそが、子どもたちの輝く笑顔をつくり、明るい未来に繋がることになるでしょう。

目指しましょう！皆が安心して子育てできる神奈川県！



# 保育専門講座 I

平成二十一年九月三〇日、ワークピア横浜において、「保育専門講座I」が開催されました。

午前は、「保育における教育の充実と小学校との連携」大切な育ちのつながり」をテーマに、早稲田大学教授小林

宏己氏の講演を聴きました。先生は、穏やかな笑顔で「私は二十年間現場で教師をして

いました。保育士、教師は「この子の学びの環境構成者」で

子どもにどう思われているかを考える。子ども達は、皆さんの表情と仕草を見ています

よ」穏やかで楽しいことが大切と話される先生を見てその

通りと実感した次第です。「保育の目標」は、養護と教育が

一体となって、豊かな人間性をもった子どもを育成する。

このことは小学校へ行っても繋がって行く事なので、保育

要録の記入方法などの問題はありますが、垣根を越えて交流し連携して行つてほしいですとの事でした。

午後、「保育園で流行する感染症」職場からの質問・疑問に答える」をテーマに、

横田小児科医院院長横田俊一郎氏の講演を聴きました。

先生は、感染症の症状や予防について、丁寧に説明して

下さり、専門的な内容の合同に趣味の写真であるアフリカ象やキリンなども見せて頂き

癒されつつ、予防についても確かなアドバイスを聞くことが出来ました。

今地域で、何が流行しているか感染症情報などを把握しておく事が大切。流行した時に地域の医療がどう動いているかが問題です。早期受診の

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

四月は、会計監査や保育事業大会の準備等、訳の分からない忙しさでしたが、最近、ようやく仕事の自己管理ができるようになりました。

また、同僚の黒沢先輩の、例えば、「今日入りました。」

一生に対する成長、発達の働

きかけを視野において見通しを持った保育を小学校へ繋げていくこと、そして地域との交流を深め育んで行かなければいけないと思いました。大変有意義な研修になりました。



## 新米の事務局長・三瓶です

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

今年一月、都築会長の面接の際に、「私は福祉分野の経験がないので、役にたたないかもしれません。」と申し上げましたが、何かの縁あつてか、四月から、保育会事務局にお世話になっていきます。感謝です。

(さんべい とみお)